

普及だより

●編集発行

大隅地域振興局農林水産部農政普及課
肝属地域農業改良普及事業協議会

連絡先 鹿屋市打馬2丁目16-6
電話 0994-52-2143
FAX 0994-52-2147

ホームページ <http://www.pref.kagoshima.jp/chiiki/osumi/index.html>

< 農作業事故防止ゼロを目指そう! >

1 多発する農作業事故

鹿児島県では高齢者を中心に農作業事故が多発しており、今年はずでに昨年を上回る12件の死亡事故が発生しています。

	農作業死亡事故発生件数	うち大隅地域での発生件数
平成25年	11件	7件
平成26年 (7月10日現在)	12件	2件

2 事故根絶を目指す取り組み～農作業事故防止研修会の開催～

農政普及課では市町と連携して農作業事故防止研修会を毎年開催しています。昨年度は肝属中央家畜市場で、今年6月19日、はJAきもつき申良支所で農業者56名が参加した研修会を開催しました。研修会の内容は以下のとおりです。

- 1 路上における農作業事故防止 (写真1)
- 2 ほ場での農作業安全対策 (写真2)
- 3 農業機械の取り扱い実演 (写真3, 4)

知識と経験は農作業事故を防止するうえでとても重要です。今後とも、多くの方々の参加をお待ちしています。



写真1 警察講話



写真2 農政普及課講話



写真3 農業専門指導員実演(刈払機)



写真4 農業専門指導員実演(トラクタ)



<肝属中部地区の畑地かんがい営農推進の紹介>

～ 台地に畑かん・潤う農業 ～

肝属地域では、笠野原地区や肝属南部地区、曾於南部地区（鹿屋市輝北町）にて畑地かんがい施設が整備され、これらの地区では『水が必要な時にいつでも利用できる』農業が営まれています。

現在、肝属川の南部に位置する肝属中部地区（鹿屋市、肝付町）において、1,537ヘクタールの広大な畑地での水利用を進めるため、肝属川水系荒瀬川上流に『荒瀬ダム』を築造し（写真1）、ファームポンドと呼ばれるコンクリート製の貯水タンク（写真2）を5基設置し、パイプラインを敷設して各農地まで配水するための工事が着々と進められています。

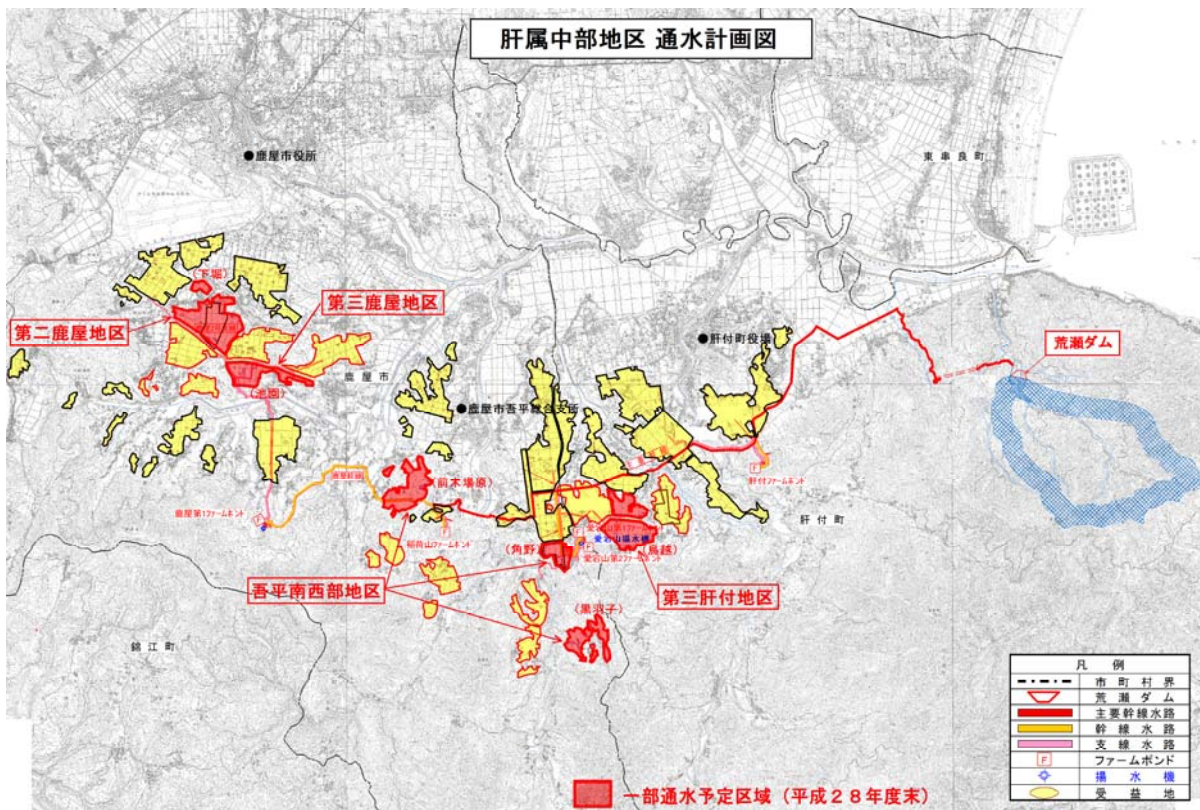


写真1 荒瀬ダム（施工中）



写真2 ファームポンド

事業実施地区のうち4地区では、平成28年度末までには一部通水が開始され、今後、水利用による計画的な作付けや安定的な農業生産活動が可能となるエリアが拡大していきます。



一部通水後の畑地かんがい営農が地域に着実に定着するよう、将来の水利用による営農活動の方向性を示した『肝属中部地域畑地かんがい営農ビジョン』を平成26年3月に策定しました。

また、平成26年度から5年間で『アクションプログラム実施期間』として位置付け、営農ビジョンの実現に向け、各関係団体と一体となって以下の推進方策を実施します。

I 畑かん営農への理解促進

- ・ 情報提供、散水方法の紹介及び実演、地域リーダーの育成
- ・ 水利用効果の周知・普及、見える実証ほ及び展示ほの設置

II 畑かん営農を担う担い手の育成

- ・ 大規模法人の育成、おおすみ農業法人経営者塾を活用した優良経営体の育成
- ・ 中心経営体への農地集積、話し合い活動、肝付町農業振興センターとの連携

III 畑かんを活用した多様な産地の育成

- ・ 推進品目拡大方策の検討

普通作物	野菜類	畜産
さつまいも	だいこん、にんじん、ごぼう、ねぎ、ピーマン	飼料作物

- ・ 大隅加工技術拠点施設（仮称）との連携
- ・ やさい加工センター（仮称）と連携した産地育成

なお、営農ビジョンにおける生産目標及び育成目標については、以下のとおりです。

【生産目標】 (単位:ha)

推進品目	現状 (H24)	目標 (H35)
さつまいも	690	710
野菜類	174	219
だいこん	100	100
にんじん	25	32
ごぼう	19	25
ねぎ	21	48
ピーマン	9	14
飼料作物	455	470
計	1,321	1,399

* H35 通水予定面積 (A=1,216ha) に換算。
 ㊦の関係で計は一致しない。

推進品目の作付率を6%UP

【育成目標】 (単位:戸、法人)

モデル経営類型	現状 (H24)	目標 (H35)	1戸当規模
個別経営体	129	162	2.9ha
さつまいも	12	12	7.6ha
野菜	72	105	2.3ha
花き	3	3	0.8ha
果樹	7	7	0.7ha
茶	4	4	3.1ha
その他	31	31	4.1ha
組織経営体	13	16	23.2ha
さつまいも	3	3	31.2ha
野菜	6	9	27.6ha
茶	3	3	5.0ha
その他	1	1	15.0ha
延べ作付面積 計			846.6ha

モデル経営体(注)で70%の面積をカバー

(注)モデル経営体とは、一定の面積と農業所得の基準を満たす経営体

知って得する! 技術情報!! ~作業安全~
<他人の貴重な体験を自分への警告にしよう!!>

1 ページで紹介した農作業安全研修会で、「ヒヤリ・ハット体験」アンケートを実施しました。その結果、「ヒヤリ・ハット経験」をした方が56名中36名と全体の約6割をしめました。その主な体験を紹介します(表1)。

「ヒヤリ・ハット体験」は、「体験した本人だけ」が実感するものです。しかし、皆さんで情報を共有することはできます。これらの貴重な体験を参考にして、農作業事故ゼロを目指しましょう!

表1 アンケート結果(ヒヤリ・ハット体験調査)

50代 男性	トラクタのブレーキの故障で転落しそうになった。
60代 男性	畑の耕耘中の居眠りが複数回ある。
60代 男性	畑の耕耘中、居眠りをし、土手を乗り越えた。
60代 男性	プラウで天地返し中、少し高い土手に乗り上げ横転。幸いケガなし。
50代 男性	トラクタをトラックに前進で積み込もうとしたら、前タイヤが浮き、後ろに倒れそうになった。
60代 男性	ハウスでバック作業中、挟まれそうになった。
60代 男性	ほ場入り口の急な坂で転倒しそうになった。
60代 男性	エンジンをかけたままの状態での点検し、巻き込まれそうになった。
20代 男性	フォークリフトの補助作業中、運転者のミスで大けがするところだった。
60代 男性	耕耘機のバック耕で挟まれそうになった。
60代 男性	草で境目を見誤り、トラクタごとほ場から転落しそうになった。
50代 男性	刈り払い機ごと、土手の下に転落した。

~これらの体験を参考にして、今一度安全対策の確認を!~

- 慣れた作業こそ、注意を持って!
- 駐停車するときは、駐車ブレーキを確実に
- 体調管理は万全に!
- 転倒・転落事故には特に注意!
- 農作業を中断するときはエンジン停止!



知って**得**する!技術情報!!～花き編～
 < **キク白さび病の防除** >

キクの白さび病は、葉上にイボ状の病斑を作り、商品価値を著しく低下させるキク栽培で最も重要な病害の一つです。

1 病原菌の生活史

糸状菌(かび)の一種で、発病適温は20℃前後、病斑に形成された小生子が空気中に飛散し、キクの葉上に付着して、相対湿度95%以上が数時間続くと侵入し感染してしまいます。感染後、潜伏期間が約10日間あって、病徴が現れます。

35℃以上の高温では発病が抑制され、枯死葉上の冬胞子は越夏は困難ですが、越冬は可能とされています。

夏は直射日光の当たらない下葉の病斑が越夏場所となり、秋以降の伝染源となっています。

6月と10～11月に発生が多くなります。春から梅雨期に発生したほ場では、秋の発生に十分な注意が必要です。



キクの白さび病

2 防除対策

1) 耕種的防除

- ・ 耐病性品種を選ぶ。
- ・ 被害葉の除去、焼却や発生ほ場の蒸し込み。
- ・ 無病苗を母株とし、苗からの病気持ち込みを防ぐ。

2) 薬剤散布

	農薬名	系統	倍率	備考
予防剤	ジマンダイセンフロアブル	硫黄	500～800	展着剤を混用し発生前に散布, 抵抗性は出にくい。
	コロナフロアブル	硫黄	800	
	ダコニール1000	有機塩素	1000	
治療剤	アミスター20フロアブル	ストロビルリン	2000	発生初期の使用。抵抗性が発達しやすいため、連用を避ける。
	ストロビーフロアブル	ストロビルリン	2000～3000	
	チルト乳剤25	SBI	3000	
	アンビルフロアブル	SBI	1000	
	アフェットフロアブル	SDHI	2000	

3) 苗導入時の注意

購入苗や外部からの苗導入は、これまで発生がなかったほ場に、新たに病原菌を持ち込み、被害を招く要因となります。見た目には発病がなくても感染している場合もあるため、さし穂の温湯処理をお勧めします。

※温湯浸漬処理方法(さし穂)

バケツなどの容器を二つ準備し、一方に45℃のお湯、もう一方に水を入れます。さし穂をネット袋に数百本入れて、お湯に1分間浸します。1分経過後、すぐに引き上げて、水に浸し熱を取ります。その後は熱湯を足してお湯の温度を調整し、繰り返します。

知って得する! 技術情報!! ~茶編~ <秋整枝のポイント除>

1 秋整枝とは・・・

- 1) 芽数・芽重・摘採時期の調整のために芽を揃えます。(図1)
- 2) 越冬芽(来年の一番茶芽)の形成
- 3) 秋整枝で樹勢は回復しない。

2 時期と位置

- 1) 平均気温が20℃を下回る時期

鹿屋地区	10月5~15日
田代地区	10月1~10日

- 2) 整枝の適切な高さは整枝後が青く見えるくらい(図2)。(赤く見える場合は深すぎ)
- 3) 整枝後の葉層を8cm以上確保します。
- 4) 今年の反省をふまえ、次年度どのような芽を摘採するか考えます。
- 5) 本整枝は一番茶と逆の順で行います。

晩生→中生→早生

- 6) 仮整枝は3~5cm上げて行います。

3 防霜対策

早生品種や中切り園等では冬芽の凍害回避のために秋winter期防霜を行います。

- 1) 初霜時は高めに設定し次第に寒になります。

時 期	設定温度
初霜時(10月下旬)	2℃
11月下旬~12月	0~2℃

- 2) 時期：初霜期から平均気温が10℃を下回る頃まで

鹿屋地区	12月中旬
田代地区	12月上旬

- 3) 対象：早生品種・中切り(更新)園

お知らせ

肝属地区茶業振興大会(お茶まつり)が開催されます。

開催日 平成26年11月15日(土)

時 間 午前10時~午後3時

場 所 霧島ヶ丘公園(かのやバラ園隣)

内 容 お茶の入れ方教室, お茶石けんづくり, 手もみ茶体験等, 様々なイベントを企画しています(写真1)。

皆様のご来場をお待ちしております。

一番茶摘採 ← 秋整枝により
強い芽が2つ, 弱い芽が1つ確保

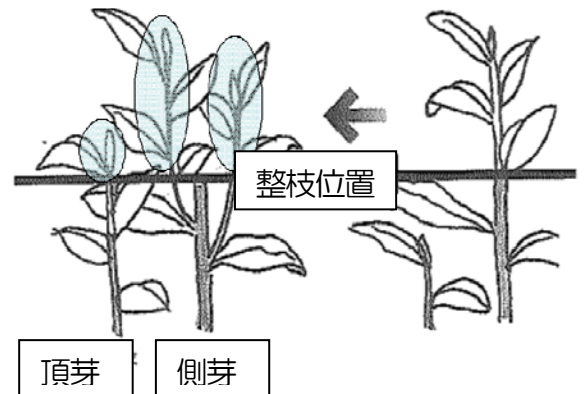


図1 秋整枝の目的

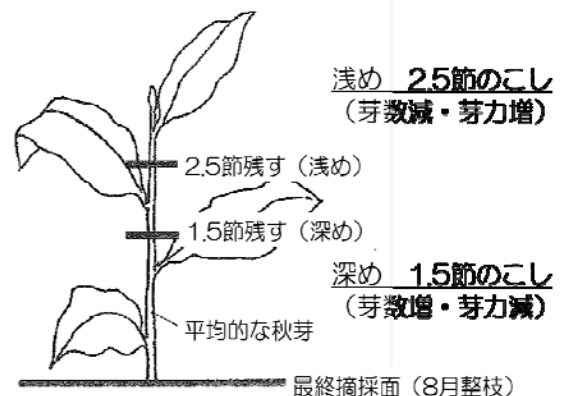


図2 秋整枝の位置



写真1 前回の茶まつり(平成22年度)

知って**得**する!技術情報!!～経営編～
 < 「青年等就農資金」のご紹介 >

平成26年度から新たに創設された「青年等就農資金」についてご紹介します。

1. 対象者

新たに農業経営を営もうとする青年等*であって、市町村から「青年等就農計画」の認定を受けた個人・法人(=認定新規就農者)

- * 青年(原則18歳以上45歳未満)、知識・技能を有する者(65歳未満)、これらの者が役員のおよ半を占める法人
- * 農業経営を開始してから一定期間(5年)以内のものを含み、認定農業者を除く。

2. 資金の使途

施設・機械
 農業生産用の施設や機械のほか、農産物の処理加工施設や販売施設など

家畜・茶果樹等
 家畜の購入費、果樹や茶の新・改植費のほか、それぞれの育成費など

借地料・リース料
 農地の借地料や施設・機械のリース料などの一括支払いなど

その他の経営費
 経営開始に伴って必要となる資材費など

3. 融資条件

- 1) 借入限度額 : 3,700万円
- 2) 償還期限 : 12年以内
- 3) 据置期間 : 5年以内
- 4) 金利 : **無利子**
- 5) 担保・保証人 : **実質的な無担保*1・無保証人**2制度**
 *1 原則として、融資対象物件のみ
 **2 原則として、個人は不要、法人も必要な場合は代表者のみ

4. 取扱金融機関

株式会社 日本政策金融公庫

5. その他留意事項

- 1) 農地等の取得にはご利用できません。
- 2) 国の補助金を財源に含む補助事業の補助残融資にはご利用できません。
 ※地方公共団体の単独補助事業や融資残補助事業(経営体育成支援事業)には利用できます。
- 3) 認定新規就農者であっても、融資機関の審査結果によってはご利用できません。
- 4) 当資金の創設に伴い、「就農施設等資金(新規借入分)」は廃止されます。

<肝属青年農業士会（肝属大学農学部）>

～肝属の農業をリードする農業青年集団～

1 青年農業士のみで構成する青年集団

肝属農業青年士会（肝大（きもだい））は農業を営む青年の中で、さまざまな問題解決手法の研修を受け実践し、県から認定を受けた「青年農業士」の集まりです。

肝大の活動目的は以下の二つです。

自主的な組織
経営者能力の向上

現在、19名が在籍し肝属をリードする農業者になるよう自己研鑽を行っています（写真1）。

昨年の主な活動紹介をおこないます。



写真1 講演会後の記念撮影

2 相互検討（夏期講習会）～自分を見つめる～

現在の研究テーマは販売促進（マーケティング）です。そこで「販売促進について」のテーマで相互討議おこない肝大の問題整理を行いました。

検討の結果、肝大の高い「生産力」と低い「販売力・営業力」がはっきりと見えてきました。（写真2）。



写真2 相互討議で自己研鑽

3 設立記念講演会～販売促進とは～

相互検討会の結果を受け、販売力・営業力を高めるため、宣伝販売促進員（マネキン）の派遣会社である(有)シナジークワーク鹿兒島の小園氏を招き、「販売促進とは」のテーマで講演会を行いました。

講演では購買ターゲットの設定、売り場主任との交渉、商品（農産物）情報の整理、陳列方法、セールトークの基本、販売の姿勢まで多岐にわたりました。

4 消費者交流会～肝大マルシェ～

講演会等で学んだ事を実践するため、鹿兒島市七ツ島の鹿兒島ふるさと物産館で販促イベント「消費者交流会」を行いました。

自分たちのブランドを「肝大マルシェ」と名付け、実際に店頭に立ち、消費者（購買者）と触れあう事で多くの経験をさせてもらいました。



写真3 肝大マルシェで販促活動

5 地域をリードする組織

肝大設立から今年で8年目、肝大は設立当初の高い志を引き継ぎ、これからも地域をリードする農業青年組織として肝属の農業を牽引していきます。